

令和2年産 美里地区の稲作情報

宮城県美里農業改良普及センター

第1号 令和2年3月11日発行

TEL:0229-32-3115 FAX:0229-32-2225

<http://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>



1. 令和2年産稲作のポイント

① 晩期栽培，直播栽培，晩生品種作付等

○晩期栽培（田植えを5月15～25日に実施し，出穂期を8月中旬とさせる栽培管理）の実施
播種・移植期及び出穂期と玄米品質との間には密接な関係があり，ひとめぼれでは播種・移植期が遅いほど整粒歩合が高まる。

○晩期栽培，直播栽培，晩生品種等を取り入れてリスクの分散と品質の向上を図る

② 適正な生育量確保・登熟向上のための肥培管理・水管理の徹底

○適正な生育量を確保

ひとめぼれで安定した品質と食味を確保できる m^2 当たり粒数2.8～3万粒を目標に，ほ場にあった施肥や栽植密度・植付本数を設定するとともに，生育ステージに応じた適正な水管理を実施する。

また，生育初期に適正な茎数とするため，水管理により制御する。

○適正な時期に中干しを実施

中干しは根の活力を高め，作土層を固くするなどの効果があり，有効茎数を確保したら早め実施する。なお，中干しが難しい水田や高温条件等により根腐れしやすい水田では，飽水管理により土壌を酸化的に保ち，稲体の活力を維持することで登熟の向上を図る。

○穂揃期の葉色の維持

穂揃期前後の葉色を維持するよう生育状況に応じた追肥を行い，登熟と玄米充実度の向上を図る。

2. 育苗管理について

温度管理と水管理に注意し，健苗育成で良いスタートを切りましょう！

田植時期から逆算して種子予措や播種時期を決めましょう。

播種時期が早いと，単に育苗日数が長くなり，苗質の劣化につながるのので，晩期栽培への取組は播種時期を遅らせることがポイントとなります。

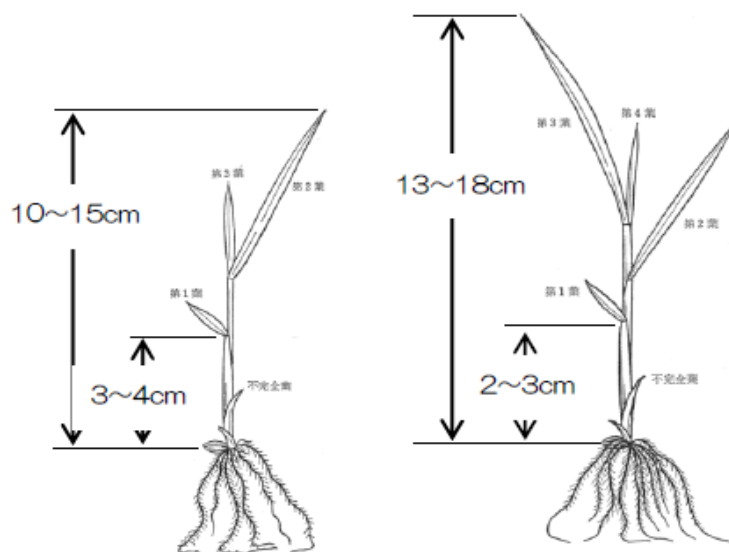


図1 田植適期の稚苗（育苗日数20～25日），中苗（育苗日数30～35日）

○浸種

- ・積算温度で 100℃を目安とし、水温 10～15℃でゆっくり浸種した方が催芽・出芽揃いが良くなります。「ひとめぼれ」は休眠性が強いので、積算水温は 120℃を目安としましょう。
- ・浸種水温が高いほどばか苗病が発生しやすくなるため、15℃以上にならないよう注意を払いましょう。
- ・水換えは 2～3 日に 1 回行い、糞袋を上下交換して均一に吸水させましょう。

○催芽

- ・適正温度は 28℃～30℃です。ばか苗病発生抑制、苗立枯細菌病予防のため、30℃を超えないように注意して、ムラなく出芽させることが重要です。
- ・芽はハト胸程度とし、伸ばしすぎに注意しましょう。

○育苗管理のポイント

	稚苗(2.1～2.5葉)		中苗(3.5～4葉)	
	加温出芽	無加温出芽	無加温出芽	保温折衷
出芽	<p>❖細菌病予防のため、温度は30℃以下で。</p> <p>・芽長は覆土上1cmに揃える。</p>	<p>・被覆資材を箱全面にべた張りし、隙間がないように押さえる。</p> <p>・低温時は出芽の遅れや不揃い、高温時は苗の徒長や芽焼けの危険が高まるので、ハウスの開閉や適切な被覆資材の使用で温度管理をしっかりと行う。</p>		<p>・出芽揃いまでは踏切溝に水を入れて置床が湿っている状態を保つ。</p>
緑化 (出芽後 2～3日間)	<p>❖目標温度は昼間25℃、夜間10℃程度で、5℃以下の低温予想時は、十分な保温対策を実施する。</p> <p>・適度な遮光性と通気性のある資材(ラプシート等)を2～3日べた掛けする。</p> <p>・床土は十分湿っているので、基本的にかん水しない。</p>	<p>・被覆資材は、第1葉が展開し、第2葉が抽出し始める頃に除覆する。(除覆が早いと、その後の苗の生育が大幅に遅れる)</p>	<p>・苗の軟弱徒長を防ぐために、出芽したら速やかに被覆資材を除覆する。</p>	<p>・箱内床土の水分過多で出芽不良になりやすいので、育苗箱までは水を上げない。</p>
硬化	<p>❖目標温度は昼間20～25℃、夜間10℃程度</p> <p>○高温対策:気温が高い時は換気、日射が強い時は遮光を行い、温度を下げる。</p> <p>○低温対策:夜間の温度を保つため、保温資材を準備し低温に備える。</p>			
	<p>❖かん水は、午前中の早い時間にたっぷりと。</p>			
	<p>❖苗の過保護は厳禁！外気に慣らしましょう。</p>			
	<p>・田植え5～7日前頃から、ハウスを開放して、外気に慣らす。(但し低温時は除く)</p> <p>・葉色が淡くなる頃(1.5葉期頃)に、窒素成分1g/箱追肥する。</p>	<p>・1.5葉期頃からハウスまたはトンネルを適宜開閉し、温度調節する。</p> <p>・3葉期以降は、低温時を除いて、ハウスやトンネルを開放する。</p> <p>・肥切れ症状が見られたら、窒素成分1g/箱追肥する。</p>		

夜間は箱上2～3cmの深水で保温し、日中は浅水にして水温上昇に努める。

○播種

- ・播種量は、稚苗の場合1箱当たり乾粃で160～180g（催芽粃で200～250g）が適当です。
- ・「だて正夢」は、粃が小さいため、「ひとめぼれ」並の播種量では1箱当たり粒数が多くなってしまいます。1箱当たり播種量を「ひとめぼれ」より10%程度減らす必要があります。

※「ひとめぼれ」が乾粃160g/箱の場合、「だて正夢」は145g/箱程度とする。

- ・「金のいぶき」は、出芽本数が少なく、出芽不揃いとなりやすく、苗の根張りも悪いため、1箱当たり播種量を「ひとめぼれ」の1.25倍程度とします。

※「ひとめぼれ」が乾粃160g/箱の場合、「金のいぶき」は200g/箱程度とする。

なお、育苗培土の1箱当たり窒素成分量を通常（稚苗2.0g）より少なめの1.6g程度にすることで、移植時のマット強度が高まります。

○育苗期間中の病害対策

育苗期間中の病害は、発生してからの防除では効果が低くなりますので、予防防除が基本です。

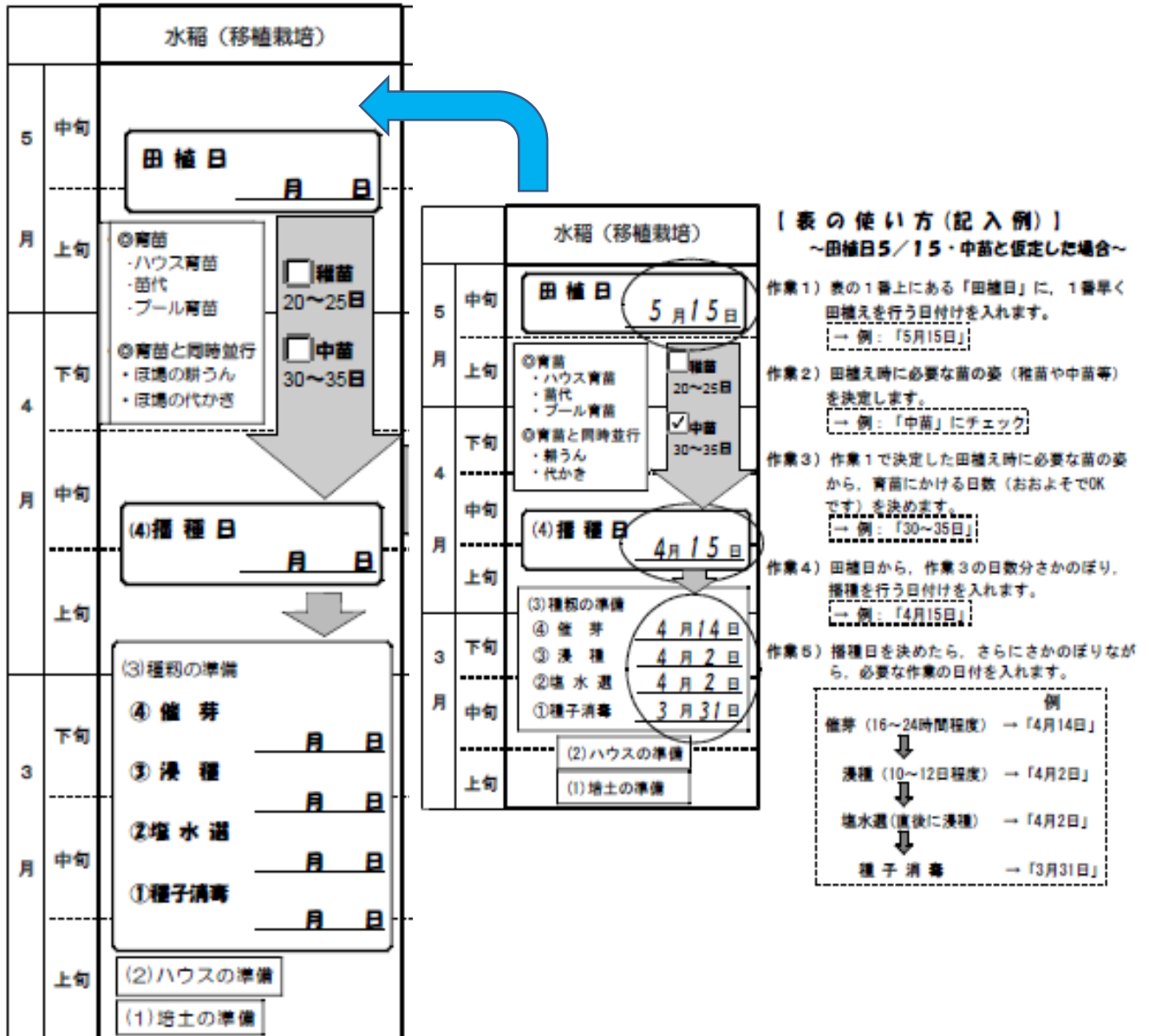
主な病害	病徴	主な発生要因	主な予防対策	発生時の対応
もみ枯細菌病		発生は坪枯れ症状。新葉がねじれながら湾曲して出葉する。新葉は基部が白色に退色して次第に暗褐色となり、腐敗枯死する。芯は腐敗し、容易に抜ける。	・種子消毒の徹底 ・催芽、出芽時の高温	過湿を避け、発病した苗は廃棄する。
苗立枯性細菌病		初期症状はもみ枯れ細菌病と酷似しているが、芯は腐敗せず抜けない。水分不足でおれたようになり、著しく赤茶けた状態で乾枯する。		
苗立枯病 フザリウム属菌 (白～赤カビ)		地際及び根は褐変。地際部に白いカビや初を中心に白～淡赤色のカビが発生。	・緑化開始後まもない頃の低温 ・床土pH高い(5.5以上)	・床土をpH5前後にする ・タチガレエースM粉剤の 土壌混和、タチガレエース液剤の灌注
ピシウム属菌		地際部の褐変はやや淡く、水浸状。地際部にカビは見られない。	・緑化期以降の低温 ・床土pH高い(5.5以上)	・適切な温度管理 ・タチガレエースM粉剤の 土壌混和、タチガレエース液剤の灌注
リゾプス属菌 (白カビ)		緑化開始時に箱全体が白いカビで覆われる。棒状、球状の異常根が見られることもある。	・出芽時の高温多湿	・出芽時の温度が高温にならないようする ・ダコニール1000やダコレート水和剤の播種時灌注 高温・加湿を避け、日光に当てて殺菌する
トリコデルマ属菌 (青カビ)		地際部や初まわりの青緑色のカビ塊が見られる。	・水分不足 ・床土pH低い(4.0以下)	・床土をpH5前後にする ・床土を乾燥させすぎない ・ダコレート水和剤の播種時灌注 高温管理を避ける

3. 田植えまでの計画を立てましょう

田植日を決めて、そこから逆算して作業計画を立てましょう。

○作業計画の例

<田植えまでのスケジュール表>



◇◇◇ 令和2年春の農作業安全確認運動実施中 ◇◇◇

実施期間：令和2年3月1日～令和2年5月31日

重点推進テーマ：「見直そう！農業機械作業の安全対策」